

とちぎ歴史資料ネットワーク (とちぎ史料ネット)

とちぎ史料ネットとは～歴史とともにある心豊かな地域社会を～

とちぎ史料ネットは2019年10月の東日本台風（台風19号）で、佐野市の磯田守氏が収集した歴史資料が被災したことを契機に、その保全活動に取り組む中で設立されました。

主な活動として、被災資料の保全作業を行うとともに、こうした歴史資料の救出・保全作業の経験を共有し、被災を未然に防ぐことを目指す活動にも取り組んでいます。



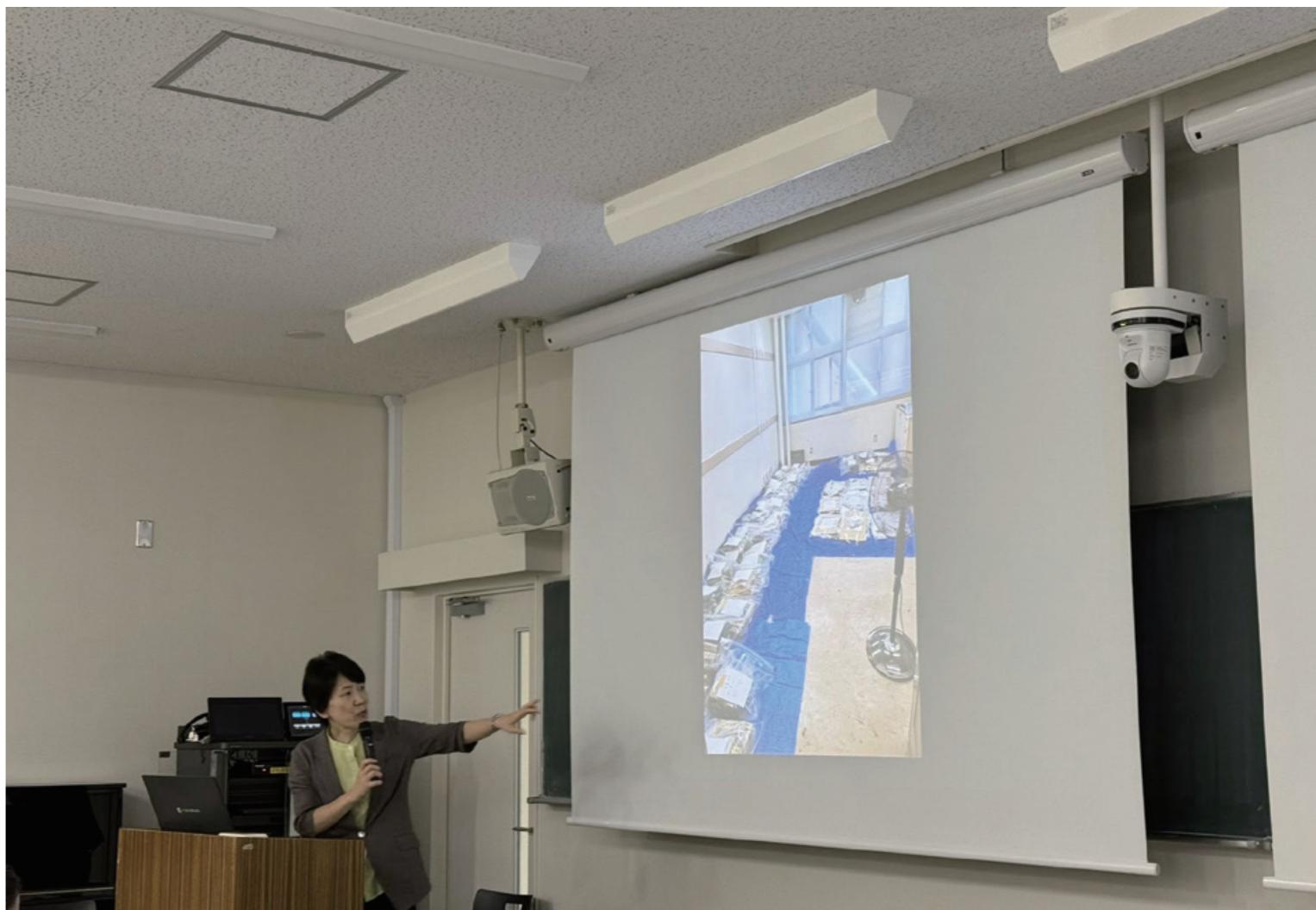
2025年に創設5年間を迎え、これまでの取り組みがNHKで紹介されました（「『文化財レスキュー』の現場を追う」[2025年10月16日放送「とちぎ630」内]）

2025年の活動① 磯田コレクション整理作業



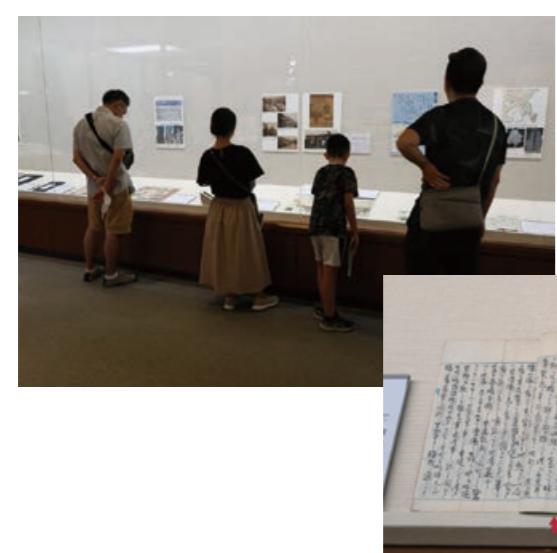
2019年の被災以来、**磯田コレクション**の整理作業に取り組んでいます。今年は県外史料の寄贈に向けて概要目録を作成しました。2026年中の作業完了を目指します。

2025年の活動② 那須資料ネットと交流集会



栃木県北の那須地域をフィールドに活動する**那須資料ネット**との交流集会を開催し、両ネットの連携確認と、今後の活動に向けた成果と課題の共有をしました。

その他 関連情報



画像(左上)：栃木県立博物館 提供

栃木県立博物館の特別展「とちぎ戦後80年」において、当ネットが寄贈を仲介した磯田コレクションの一部が展示されました。



國學院大學栃木学園教育センターにおいて開催された歴史文化資料保全首都圏大学協議会「地域歴史文化継承拠点としての大学の役割を考える」で、当ネットの平野副代表と坂本副代表が報告しました。